

IPO銘柄 エニグモ (3665・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
3665	100株	公募: 12.0万株 売出: 5.25万株 (OA2.58万株)	1,550円~1,750円 (12.0倍)	大和証券

■ 日程



ソーシャル・ショッピング・サイト、BUYMAを運営

■ 事業内容

ソーシャル・ショッピング・サイト「BUYMA (バイマ)」を運営。BUYMAは商品の買い付け業務をバイヤーと呼ぶ個人に開放してソーシャル化した新しいCtoC型プラットフォームで、バイヤーは主に海外在住の日本人。一般のバイヤーに加え、取引実績などを基に認定したプレミアムバイヤー、法人ショップも存在。12年5月末現在のバイヤーは70カ国に3万人以上おり、登録数4,000ブランド以上、年間150万品以上のアイテムが出品されている。12年4月末の会員数は89万8,469人。関連サービスとして「Stylist (スタイリスト)」「Stulio (ステューリオ)」といったソーシャル性を活用したサービスも展開する。11年8月に広告事業から撤退し、現在は単業態。

■ 特徴

購入者にとっては、3万人以上のバイヤーそれぞれの嗜好性が反映される多様なラインナップからショッピングを楽しむことができる。日本では購入できない希少な商品を手に入れることができるほか、店舗を持たず、中間業者も挟まないため商品の価格は現地価格に比較的近いことも利点。出品されていない商品のリクエストをバイヤーに行うこともできる。購入比率はレディース9に対してメンズ1。一方、個人バイヤーは注文を受けてから購入することもできるため、在庫リスクを抱えることがない。

アナリストコメント

■ 定量分析

12年1月期の非連結経常利益は前年比71.7%増の3億5,400万円を計画する。広告事業から撤退したことで11年1月期は大幅な減収となったが、高収益事業への集中によって収益力は高まっている。スマートフォンの普及なども高成長を支える要因の一つ。

■ 定性分析

仮条件の上限が目論見書に記載された想定発行価格よりも高い水準に設定された。人気のネット株であることに加え、ソーシャル、スマホといったキーワードも投資意欲を刺激する。Eコマース関連の一角だが、ソーシャルコマースという目新しいモデルを掲げていることから新鮮味は強い。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は3.5億円弱。株式市場全般の復調によってIPOへの投資マインドは大幅に改善しており、買い意欲は非常に強い。既存株主に掛かるロックアップは公開価格の1.5倍水準で解除される内容だが、大きな問題にならないとみられる。
(小泉健太)

■ 類似企業

エニグモ(3665・マザーズ)	予想PER12.0倍 (仮条件上限)
スタートトゥデイ (3092・東証1部)	予想PER19.8倍
ラクーン (3031・東証マザーズ)	予想PER10.1倍

■ 引受証券

大和証券、三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券、いちよし証券、SMBC 日興証券、高木証券、東海東京証券、藍澤証券、岩井コスモ証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
11年1月期(実績)	920	40.2	84	黒字回復	157	黒字回復	108.3	—
12年1月期(実績)	851	▲7.5	206	2.5倍	246	56.7	166.5	—
13年1月期(会社予想)	1,190	39.8	354	71.8	239	▲2.8	145.2	—

※ 10年4月に(1株→1,000株)の株式分割、12年4月に(10株→1株)の株式併合を実施。
11年1月期・12年1月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
11年1月期	14,165,000	720	352	184	173.9	49.0	58.5
12年1月期	14,974,000	1,125	631	184	421.6	56.1	50.1

※ 11年1月期および12年1月期のBPSは遡及修正

大株主上位 (上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	ソネットエンタテインメント	500,000	24.83
2	須田将啓	288,000	14.30
3	田中禎人	288,000	14.30
4	安藤英男	210,000	10.43
5	藤井真人	74,000	3.68
6	ジャフコV1-B号投資事業有限責任組合	54,500	2.71
7	日本政策投資銀行	50,000	2.48
8	松田竹生	40,000	1.99
9	新生銀行	39,000	1.94
10	ジャフコV1-A号投資事業有限責任組合	32,500	1.61

経営陣

役職	氏名
代表取締役(共同最高経営責任者)	須田 将啓
代表取締役(共同最高経営責任者)	田中 禎人
取締役(最高執行責任者)	安藤 英男
取締役	十時 裕樹
常勤監査役	雨宮 哲二
監査役(非常勤)	石本 忠次
監査役(非常勤)	西本 強

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。